

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市八本松児童館
2 指定管理者	特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・令和6年度 32,278人(前年度比 127.7%) ・令和5年度 25,267人 ・令和4年度 21,647人 《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 61,370千円(47,650千円) ・ その他市が負担した費用 0千円(0千円) 《収入》 ・ 使用料収入 0千円(0千円) ・ その他収入 0千円(0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者会を実施。

二 管理運営に係る評価(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	31/31
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	リーフレットや児童館だより、初めての利用者を対象とした冊子の発行、保護者からの要望を受けてSNSをはじめ、ブログの更新や利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。 なお、中高生世代を対象に遊戯室を専用で利用できる時間を定めるだけでなく、遊戯室の一面に専用のスペースと物品を確保するなど、中高生世代が利用しやすい環境を整えている。中学生の利用が増えたことを受けて、教員が毎月来館して情報共有を行う等、中学校との連携を強化しながら育成支援に取り組んでいる。 さらに、地域に向けて取り組んだ「どんぐりマーケット」では、子ども達が企画運営に参加しており、子ども達のやりたいことを大切に支援している。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	20/18

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘）による自己評価》
仙台市の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針に沿い【地域でつながる・あそびでつながる児童館】を念頭に置いて、利用者に一人ひとりに寄り添った居場所づくりに取り組んだ。 ＜健全育成事業＞誰もが安心安全な居場所づくりに寄与できるように環境を作ってきた。地域にある居場所としての機能を発揮し、子どもだけでなく、大人も相談できる場所であり、子どもたちの初めての体験活動や、大人にとっての久しぶりの体験として、親子での交流の場としても機能できている。中高生世代が安心して利用できるように専有の物品を用意する他、スポーツを通して小学生と遊ぶ様子も見られた。 ＜子育て支援事業＞妊娠期支援事業の取り組みから、未就学児への事業にかけて連続した関わりが確立しつつある。安心して子育てができる街づくりの一つとしても妊娠期から認知してもらうことができた。どこでも児童館では、児童館を利用したことのない親子との関わりを持ち、その後利用につなげることができた。 ＜地域交流促進事業＞防災プロジェクトとして全国で展開している事業を当児童館でも実施。クリアファイルを作成する他、体験型イベント段ボール防災キャンプ・あそぼうさいを開催。防災に身近に感じつつ、体験の大切さを子どもたちに伝えられた。どんぐりマーケットは地域の一大イベントとなり今年度は子どもたちが個人出品できるようにしたことで、買うだけでなく売ることの楽しさを味わうことができた。 ＜放課後健全育成事業＞今年度から第2サテライトの運用が始まり、子どもたちや保護者から不安な声が聞かれたが、職員が一丸となって関わることで、不安を払しょくし安心の声に替わった。本館・第1サテライトにおいても、子どもたちが自らやってみよう活動に取り組めるように、自由に制作ができるコーナーを作ったり、保護者にも丁寧に様子を伝えることで、放課後を安心して過ごす子どもの様子が多くみられた。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
児童健全育成事業においては、中高生世代支援「∞base」は、バドミントン等のスポーツの他、クッキングやお泊り会等のイベントを開催して多くの中高生世代が来館し、地域における安心出来る居場所となっている。その他、こどもスタッフ企画運営のミニ夏祭りやクリスマス会、将棋クラブの将棋王決定戦の開催等は、小学生が達成感や自己肯定感を得る機会となっている。 子育て家庭支援事業においては、プレママ・プレパパ対象の「はぐはぐ」を太白区の家庭健康課の協力のもと年間通して開催している。おむつ交換などの育児体験や助産師・先輩ママの話等、保護者の育児不安の軽減を図るとともに、産後の居場所としての児童館の情報提供をして子育て家庭への支援を行っている。 地域交流推進事業においては、児童館主催の恒例行事「どんぐりマーケット」で、令和6年度新たにこどもによる自作のキーホルダー等の出品コーナーを設けて地域との交流を広げ、こどもの意欲や自主性を育む取り組みを行っている点が評価できる。また、地域の取り組みとなっている「あそぼうさい」では、児童クラブの保護者やとーちゃんずの協力を得て、防災キャンプや避難所体験などの遊びを通した防災体験の他、地域の避難場所を職員と一緒に巡りながら確認する等、楽しみながら防災について学ぶ機会を提供している。また、地域のおまつりやイベントで「ラーメン体操」を披露し、積極的に地域との交流を広げている。 放課後児童健全育成事業においては、本館・サテライト共に子ども達の声やアンケートをもとに必要な環境を整えて主体的な遊びや生活をサポートしている。また、児童クラブだよりの定期発行によりこどもの様子を共有するとともに、保護者が活動や行事に参加する機会を設けて、保護者との協力関係を構築している。 また職場内研修について年間計画を作成し、関係法令や児童館ガイドライン、児童クラブ運営指針に基づいた施設設置目的の理解や安全管理・危機管理、児童対応等、多様な内容で実施し、児童理解や児童館職員の職責について確認共有しながら職員の資質向上に努めている。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課